令和元年度学校教育懇談会(東地区)要点記録			
日　時	令和元年 10 月 17 日（木）９：30～11：25	場所	ひかりプラザ 203・204 号室
懇談会 概要	○開会 １　市長あいさつ ２　自己紹介 ３　懇談 　・英語教育について（資料あり） ４　その他 ○閉会		
出席者 (順不同・敬称略)	［市長］ 井澤　邦夫（午前 11 時３分 途中退席） ［教育長］ 古屋　真宏 ［教育委員会委員］ 富山　謙一(教育長職務代理者)，戸塚　晃，佐久間　博美，大木　桃代 ［学校長］ 吉田　健（第一小学校長），小林　卓（第三小学校長），出町　桜一郎（第四小学校長），藤原　栄子（第七小学校長），矢島　英明（第九小学校長），後藤　正彦（第一中学校長），重松　靖（第二中学校長），野口　大介（第四中学校長） ［保護者］ 嶽間沢　玲（第一小学校 PTA 会長），大西　美和（第三小学校 PTA 会長），小山　佳枝（第四小学校 PTA 会長），井上　和美（第七小学校 PTA 副会長），上田　智美（第九小学校 PTA 会長），白岩　成志（第一中学校 PTA 会長），一戸　優子（第二中学校 PTA 副会長），風岡　奈穂子（四中サポーター） ［事務局］ 堀田　順也（教育部長） 日髙　久善（教育総務課長），富永　大優（学校指導課長），大島　伸二（学校指導課統括指導主事），山田　隆史（教育総務課企画係長），大嶽　みなみ（教育総務課企画係主任）		

○　開会

司会進行：古屋教育長

１　市長あいさつ

・学校教育懇談会では，毎回忌憚のない御意見を伺っている。市長部局と教育委員会での連携が重要視されている中で，総合教育会議でも情報共有を行っているが，それを補完するような現場の声を聞けるのでありがたい。

・来年度から小学校で英語が教科化され，日本の英語教育は大きな転換期を迎える中で，期待や不安が多くあると思う。保護者・学校・市・教育委員会が情報交換を行うことで英語教育の転換期に順応し，不安を少しでも払拭できる場になればと考えている。

２　自己紹介

・全員が順に自己紹介を行った。

３　懇談

・今までの英語教育についての感想，これからの英語教育に対しての期待や不安に思うこと，

家庭での取組等について懇談を行っていきたい。

※主な意見を抜粋

○小学校の英語の授業について
- 先生によって指導に差があるように思う。全体的に授業力が上がっていくと良いと思う。
- 授業を英語のみで行っていた。日本語がない中でもそれなりに児童は動くことが自然になっていた。
- 若い先生や子どもたちにとっては英語を話すことへのハードルが下がってきたのではないか。
- 小学校（特に低学年）は間違っても良いから話してみようということが授業のメイン。その体験ができるのがＴＧＧ（東京グローバルゲートウェイ。東京英語村）である。
- とにかく英語が嫌いな児童を作らないことが小学校では一番大切。無理やり学ばされているという意識を作らせないことも大切。
- 小学校で英語を学ぶ目的は，コミュニケーション能力の素地・基礎となる資質・能力を育てること。将来の受験対策ではないことを皆さんに分かっていただきたい。このことは学校からも広報しているが，市全体で広報することも大事なのではないか。
- 先生たちに自信をつけさせるような研修が大切。ＡＬＴがいなくても自信を持って教えられる先生になってほしい。

○中学校の英語の授業について
- 指導教諭がいて授業は３年間でプログラムされている。
- ３年生になると，生徒間で自由に会話できるようになっている。その会話について先生が追加でヒントを与えると，さらにコミュニケーションができる。英語を使う面白さを感じてもらいたい。それを感じないといくら知識を与えても興味が続かないのではないか。
- 数年前までは堅い授業だったが，先生方が子どもたちにアクティブに働きかけており，会話の授業が増えた。さらに，子どもたちも小学校から英語に慣れているので，それに上手に適応していた。

○小学校から英語教育を開始したことによる中学生の変化について
- 個人によるが，意欲的に話そうとする生徒が多い。
- 英語に関する興味・関心が高い生徒が多い。
- 中学校に入学した時点で得意・不得意意識を持っている。
- 単語テストなどの「書く」ことへの関心があまり良くない。スペリングは小学校では行っていなかったので練習が苦痛かもしれないが，身に付けさせる良い方法を考えて進めていきたい。
- 小学校と中学校の連携が大切。
- 子どもが小学校の時は楽しく学んでいたが，中学校に進学し文法やスペリングを含めた正しい英語を学び始めてから苦手になった。文法や語彙を含む受験のための英語と，会話して通じることが嬉しいと感じるＴＧＧで体験するような楽しい英語は，別のものなのか。
  →４技能（読む・書く・話す・聞く）を最終的にまんべんなく身に付けることが望ましい。文法はスポーツで言えばルールであり，話すことや聞くことと必ずつながっていく。話したい，相手の言うことを正確に理解したいと思うのであれば文法は必要。

○家庭での取組について
- 家庭での熱の入れ方によって，子どもの英語力に差が出てしまうのではないか。
- コミュニケーション力，発言力，子どもの好きを伸ばしてほしい。

○日本文化への理解について
- 今後，国際社会の中で生きていく子どもたちには英語は必要。その一方で，子どもの頃は英語よりも日本語や日本文化をしっかり学んでほしい。
- 小学校では日本語の能力を育てて，その正確な理解と能力を身に付けた上で英語を身に付けていくことが大切。

- 英語力を高めること，日本文化への理解を深めることの両方が大切。

〇英語を話すことについて

- 日本人は文法は一番できるが，会話と書き取りはできない。授業であてられて「間違えてしまうと恥ずかしい」から正しい英語しか使えない。正しい答えを求めることも大切だが，正しくなくてもとりあえず話してみることを伸ばしていく授業にしていくと日本人は話せるようになるのではないか。
- きれいな発音のネイティブスピーカーはいない。とにかく話すこと，トライすることが大切。発音が上手ではないから，自信がないから話せないというのは違う。委縮しないでほしい。

〇英語教育をさらに充実させるために期待すること，望むことについて

- 授業の指導案や教材を学校のパソコンを用いて先生たちの間で共有していくと授業が改善されるのではないか。
  →既に行っているので，先生たちにより使っていただけるよう周知してほしい。
- 英語以外の教科でもコミュニケーション力を磨くことが必要。
- 英語はあくまでもコミュニケーションを取ることができる対象を増やすためのツール。内面を磨いて英語で伝えたい事柄を増やすこととツールを使える力を両輪で伸ばしていく必要がある。
- 小学校や中学校の学年で英語を学ぶ目的が異なる。小学校では英語を学ぶことに対するモチベーションを高めることが求められている。
- 学校（先生）・保護者・教育委員会が連携し，市の子どもたちが世界に羽ばたく人間として活躍していけるように考えていきたい。
- 国分寺市では英語が嫌いな子どもを作らないために，英語を学ぶ過程で小さなステップを乗り越えるシステムを作った。また，英語の授業で取り組む内容は子どもたちに身近なものとなっている。市立小学校５年生全員を対象としたＴＧＧでの体験学習も昨年度から行われており，これからの英語教育に対しても安心感がある。
- 子どもたちには，英語での楽しい成功体験を積んでほしい。理想は英文法を考えずに話すことができ，英語で物事を考えられるようになってほしい。
- 子ども時代に覚えたことは大人になっても消えない。これからの教育に期待したい。

〇教育長がまとめとして発言

- 本日の内容を踏まえ，これからの英語教育がどうあるべきかＰＴＡでも御検討いただき，学校に御意見をお寄せいただきたい。
- 英語が嫌いな子どもを作らない，より楽しく学べるような授業展開をしていきたい。
- グローバル社会に生きる子どもたちのためにどのような力を育てていくかを明確にしながら，より実りある教育活動になるよう努力していきたい。

以上